

2001 年度 システム・ネットワーク化情報交換会（第 5 回情報化委員会）記録

日時：2001 年 12 月 6 日（木）10:00～17:00

場所：愛知工業大学 AIT プラザ 3 階

司会：南山大学 笹山達成

記録：金城学院大学 西尾十和子

参加大学：25 大学 44 名

愛知医科大学、愛知学院大学、愛知学泉大学、愛知工業大学、愛知淑徳大学、愛知大学、朝日大学、岐阜経済大学、岐阜聖徳学園大学、金城学院大学、皇學館大学、椋山女学園大学、鈴鹿医療科学大学、中京大学、中部大学、東海学園大学、東海女子大学・東海女子短期大学、豊田工業大学、豊橋創造大学、名古屋経済大学、名古屋女子大学、名古屋造形芸術大学、南山大学、日本福祉大学、四日市大学

プログラム

10:00 会場校挨拶 愛知工業大学図書館長 佐藤由身子氏
委員長挨拶 情報化委員会 笹山達成委員長

10:10 システム・ネットワーク化アンケート集計結果報告 森本真委員（岐阜聖徳学園大学）
加盟 51 館における、機械化状況やホームページ開設状況、電子ジャーナルの導入状況、資料電子化状況などについて報告がなされた。

10:30 情報交換

分科会(10:30～11:15)

以下のテーマに沿って、事前アンケートなどを基に情報交換が行われた。

- ・第一分科会 「所蔵アーカイブ・刊行物の電子化」 参加 13 名
電子化の経緯や著作権の取扱いなどについて、電子化の方法とその公開方法についての事例報告がなされた。更に、電子化の担当部署、費用、著作権の取扱い、公開の許諾方法についての意見交換がなされた。
- ・第二分科会 「IT 技術を使った利用者向けサービスについて」 参加 17 名
web で予約・個人情報確認などを実施している大学の現状や、携帯電話からの OPAC 検索、メールを使ったニュース配信、レファレンス、督促などの各大学の現状が報告された。
- ・第三分科会 「利用者端末セキュリティについて」 参加 14 名
利用者用端末に対するセキュリティの程度や管理方法などについて各大学の実情が報告された。更に、ウイルスについての対策方法、利用者用プリンターの利用制限などの情報交換がなされた。

全体会(11:15～11:30)

各分科会の報告がなされ、続いて全体の質疑応答が行われた。

・分科会報告

第一分科会報告 河路峰雄委員（椋山女学園大学）

事例報告として、豊橋創造大学より、紀要を電子化し、PDF 形式で公開。過去の分も検討中との報告があった。南山大学より、図書館報・カトリック文庫通信・図書館紀要を外注と館内で電子化しているとの報告があった。中京大学より、貴重書（絵巻物）を CD-ROM 化し、スタンドアローンで公開との報告があった。質疑応答として、原稿の形式はどうしているかという問いに対して、原稿をそのまま渡す、予め圧縮した形で渡すなど多様な回答があった。貴重書の電子化はどこで行ったかという問いに対して、業者（雄松堂）が 1 ヶ月持ち出して行ったとの回答があった。また、著作権については、今後は電子化を前提に、投稿規程に盛り込むなどの意見が出された。

第二分科会報告 扇美穂委員（豊田工業大学）

webから予約、個人情報確認などを実施している大学に対して、業務に負荷はかからないかとの質問があり、特に問題や負担は感じていないとの回答があった。携帯でのOPAC検索を実施している大学に対して、利用状況を知りたいとの質問があったが、記録等を取っていないので利用状況は不明であるとの回答があった。またメールを使って、図書館からお知らせを一括発信している大学などの報告があり、利用者への連絡方法は掲示からメールへ移行していく方向である。

第三分科会報告 古田明彦委員（中部大学）

セキュリティに関しては、全くかけていない大学から厳重にしている大学まで様々である。Windowsのシステムポリシーを利用している大学が大多数で、後は、キャンパスエスパーなどであった。ウイルスについてはAntiVirusを使用している大学がほとんどである。

・全体の質疑応答

南山大学より、「アンケートの利用者端末セキュリティでID/パスワードが必要と回答している館が16%あるが、どこが管理しているのか？」との質問があった。挙手により確認した結果、大学全体で管理（7校）、図書館独自に管理（1校）となった。更に、携帯電話から情報検索を実施している金城学院大学に対して、「業者からデータ量が多くて携帯では見られないと言われたが、情報の制限をしているのか？」との質問があった。それに対し、「書名などの最小限の書誌情報のみで、ローカルデータ等は見せていない。」との回答があった。

11:30 昼食及び愛知工業大学図書館見学（自由見学）

12:30 講演1 「Z39.50の意味と標準化への動き」

慶応義塾大学 メディアセンター本部 課長 入江 伸氏

国際規格のプロトコルであるZ39.50について、システム担当の実務者の立場から、その根本的な意味と、慶応の図書館システムへの実装と課題を中心に国内での標準化の動きについて講演がなされた。

上記講演に対して、下記のような質疑応答があった。

1) 慶応のシステムはCALISのはずだが、KOSMOSIIとは何か。

2) MARC21を採用した理由は何か。

上記、1)については、KOSMOSIIというのは慶応のシステムの略称。

CALISを採用したのは当時マンブスが速く、RLINへのGatewayシステムがあった為。2)については、スタンダードな書誌は何かと考えた時、USマークで動きようがない。との回答があった。

*参考URL <http://libsys.lib.keio.ac.jp/index.html>

*参考文献 「図書館雑誌」Vol.95, no.8 (2001.8) pp.554-557

13:45 講演2 「Web-OPAC 横断検索の実態と展望」

(株)ブレインテック インターネット事業部 清野 俊樹氏

Web方式によるOPACの横断検索の実態と今後の展開について、ブレインテックが公開している「Jcross」を中心に講演がなされた。

上記講演に対して、下記のような質疑応答があった。

1) NIIの存在があるが、大学図書館のニーズはあるのか。

2) 運用コスト。

3) Z39.50のターゲットをサポートするような動きはあるか。

上記、1)については、大学については、分館をまとめて検索したいなどの要望が多い。NIIにデータをすべて登録しているわけではないので、使い分けは出来るのでは。需要としては公共図書館が中心で、広域利用を考える入口として横断検索を利用されている。2)については、ランニングコストとして、システム変更に従って追従するのに、1システム1人で2~3日かかるが、インターネ

ットのブラウザから確認できる情報ばかりなので作業は大変ではない。3) については、内部的に検討中であるとの回答があった。

* 参考 URL <http://www.jcross.com/>

15:10 休憩

15:35 プレゼンテーションセミナー

各社全体説明の後、個別ブースによるデモンストレーションが行われた。

全体説明(15:35～16:20)

- 1 インフォコム社「InfoLib」/ 紀伊国屋書店
マルチメディア統合検索システムパッケージ「InfoLib」の紹介。
*参考 URL <http://www.infocom.co.jp>
- 2 DVD - Video ギャラリーシステム / 丸善株式会社 環境デザイン事業部
AV コーナーの管理と運用の為に DVD-Video ギャラリーシステムの紹介。
- 3 貴重書デジタルアーカイブ / 雄松堂書店
貴重書のデジタルアーカイブ化の方法や手順、実際の画像を紹介。
*参考 URL <http://www.yushodo.co.jp>
- 4 日経 BP 記事検索サービス / 日経 BP 販売株式会社
日経 BP の専門誌を検索閲覧するオンラインデータベースサービスの紹介。
*参考 URL <http://www.nikkeibpss.co.jp>

個別説明(16:20～17:00)

各社個別ブースにより、詳細な説明、参加者との質疑応答、デモンストレーションなどが行われた。

17:00 閉会

以上